ヨハネ１章14〜18節「恵みとまことを実現する方」

クリスマスの時期を多くの人たちが楽しい時として過ごしています。もちろん教会でもクリスマスを祝い、喜びを分かち合います。どうしてクリスマスを祝うのでしょうか。その喜びはどこからきているのでしょうか。それは、イエス・キリストによって救いを与えられたからです。イエス・キリストが私たちの救い主だからです。その主の恵みをみことばから思い巡らし、主に感謝と賛美を献げたいと思います。

この福音書の冒頭から語られてきた「ことば」なる方とは、人となられた神の御子、イエス・キリストであると語り、その方がなさったみわざのことが語られています。

１．神の御子が人となられた（：14）

14節。「ことばは人となって」の「人」と訳されていることばは、直訳すると「肉」ということばです。「ことば」なる方が肉体を持たれた、目に見えない神、永遠無限の神が一人の人となられたと言います。「私たちの間に住まわれた」の「住まわれた」と訳されていることばは、「幕屋を張る」という意味のことばです。旧約時代には神の臨在が幕屋や神殿に現されましたが、今や神が人となられて、その方において神が臨在されたと言います。

ヨハネたちは「この方の栄光を見た」と証言します。ユダヤ人の間では、「栄光」は神にのみ帰せられるものです。ヨハネは自分たちの間に住まわれた一人の人に確かに神の栄光を見たと証言します。その方は「父のみもとから来られたひとり子」であると言います。父なる神と子なる神という関係を持つ方です。そして、父なる神と同じ栄光を持っておられるのです。

その「ひとり子としての栄光」は、この方が「恵みとまことに満ちておられた」ことに明らかにされたと言います。ヨハネは17節で「恵みとまことはイエス・キリストによって実現した」と説明しています。そこで初めて、「ことば」なる方はイエス・キリストのことであると言っています。

ここに、聖書が教えている大切な真理の一つが語られています。それはイエス・キリストはまことの神であり、まことの人であるということです。どのようにして神が人となられたでしょうか。

それは聖霊によって神の御子が処女マリアの胎に宿ったことによります。それは神のみわざ、奇蹟でした。しかし、受胎の後は私たちと同じように、母マリアから生まれ、イエスと名付けられ、子どもの時を過ごし、大人へと成長しました。ただ一つの違いは、イエスには罪がなかったということです。

イエスは30歳の頃に人々の前に出て行き、いわゆる公生涯が始まりました。ヨハネは弟子として3年余りイエスと共に生活しました。その間に直接見たこと、聞いたこと、イエスの公生涯の出来事を記録しました。イエスは父なる神に祈り、聖書を読み、試練に遭い、父なる神のみこころに従われました。人としてのイエスの姿は私たちの模範です。

しかし、イエスはただの人ではありませんでした。イエスがお語りになった様々な教え、人々に接する態度、なさった数々の不思議なみわざなどから父なる神のことを明らかにされました。そしてイエスは神に従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、イエスをよみがえらせました。イエスと共に歩んだヨハネは、イエスが神のひとり子であり、神であることを知らされました。神のひとり子としての栄光を見たと言います。

イエスと共に歩んだヨハネをはじめ使徒たちはイエスはまことの神でありまことの人であると確信しました。このことは私たちの理性で説明できる範囲を超えています。神が三位一体のお方であることと同じように、聖書がそのように教えていることを受け入れることで満足すべきです。

２．恵みとまことを実現された（：14〜17）

この方が成し遂げてくださった二つのことが語られています。一つは、恵みとまことを実現されたことです。

16節。すべての人の一切の必要を満たすことができるのは、この方だけです。この方には尽きることのない豊かさがあります。その豊かさの中から恵みを重ねて与えられていきます。

17節。「律法はモーセによって与えられ」ました。神はイスラエルに律法を与えて、ご自身のみこころを明らかに示されました。律法に従うなら、神を礼拝することができ、神の民としてふさわしく生きることができ、

神のみこころに従って生きることができます。そして、周りの民に神の「恵みとまこと」を証しすることができます。けれども、イスラエルはしばしば律法を捨て、神、主に背き、偶像に仕え、神の民としてふさわしくありませんでした。そのことに表されているように、律法によっては神の民が歩みを全うすることはできません。それは、人の罪のゆえに、律法を完全に守ることができないからです。

旧約聖書を通して表されていた救いについての神のみこころを表現していることばの一つが「恵みとまこと」です。ペアで一つの意味を表していると考えられます。そして、旧約聖書で表され、約束されていた神の「恵みとまこと」が「イエス・キリストによって実現」したとヨハネは語ります。

神はひとり子を世に遣わし、御子イエスが救い主として、旧約聖書で示されていた救いの約束を成就し、完全な救いを成し遂げてくださいました。人には罪のゆえにできないことを、神の御子が罪のない人となって成し遂げてくださいました。イエスは神のみこころに完全に従われました。その罪のないお方が、罪人の身代わりとなって十字架で刑罰を受けて死なれました。そして、三日目によみがえられました。そのキリストによって、罪を赦されて、新しいいのちに生きることができます。救いの道が開かれました。キリストを信じる者は神の民として歩み続けることができます。そのように神の「恵みとまこと」はイエス・キリストによって実現されたのです。

私たちも、イエス・キリストによって実現した「恵みとまこと」にあずかることができます。イエス・キリストを信じるなら、罪からの救いが与えられます。そして、神に仕えて生きることができます。「恵みの上にさらに恵みを受け」ていくことができます。イエス・キリストに「恵みとまこと」が満ちていると私たちも証しすることができるのです。

３．神を説き明かされた（：18）

「ことば」なる方、神の御子が人となられて成し遂げたもう一つのことは、神を説き明かされたことです。

18 節。旧約時代には、神はある人々を選び、ご自身を啓示なさいました。旧約聖書に登場する聖徒たちに神は特別にご自身を表されました。それでも、彼らも神を直接に見ることはありませんでした。神が彼らに示されたことを彼らは理解し、伝えましたが、彼らも神のすべてを知っていたわけではありませんでした。

一方キリストは、「父のふところにおられるひとり子の神」です。御子は永遠において父なる神と共におられ、父なる神と等しく神のご性質を持っておられます。「父のふところにおられる」という象徴的な表現によって、最も親密な間柄で、秘密も知っていて、愛情を最も受けていること伝えているのでしょう。そのような神の御子であるからこそ、父なる神を説き明かすことができたのです。

人が目で見ることができない神のことを、神の御子が人となられて、人々の間に住まわれたので、直接見ることができるようになりました。Ｉヨハネ１章1〜2 節。

神は人が見ることができ、さわることができる形でご自身の臨在と性質を明らかにされました。イエスの生涯、人々に対する態度、神についての教え、なさったみわざを通して、ヨハネたちは神のことを知ることができました。そして私たちも、神について知りうること、知るべきことを、イエス・キリストによって知ることができるのです。神の偉大な力、完全な知恵、比類なき聖さ、罪に対する怒り、そしてこの世に対する愛、特に罪人が滅びることを望まないあわれみ、これらのことはイエス・キリストにおいて明らかにされました。殊にキリストの十字架において表されたのです。

神は私たちにも「ことば」なる方、ひとり子の神、まことの神でありまことの人であるイエス・キリストの栄光を見させてくださいます。聖書を通して、あるいはキリストによって救われて変えられた人たちによって、キリストの栄光を見させてくださいます。

また、神はイエス・キリストによって実現した恵みとまことを、私たちにも与えてくださいます。そして、恵みの上にさらに恵みを受けさせてくださいます。イエス・キリストによって神を知らせてくださり、神の栄光のために生きる者としてくださいます。恵みとまことが私たちにも実現します。

そのためにはイエス・キリストを受け入れ、信じて従う決心をすれば良いのです。このクリスマスに、救い主イエス様を受け入れましょう。そして、永遠の神の御子であり、私たちの救いのために人となれた救い主イエス様を心から賛美しましょう。